

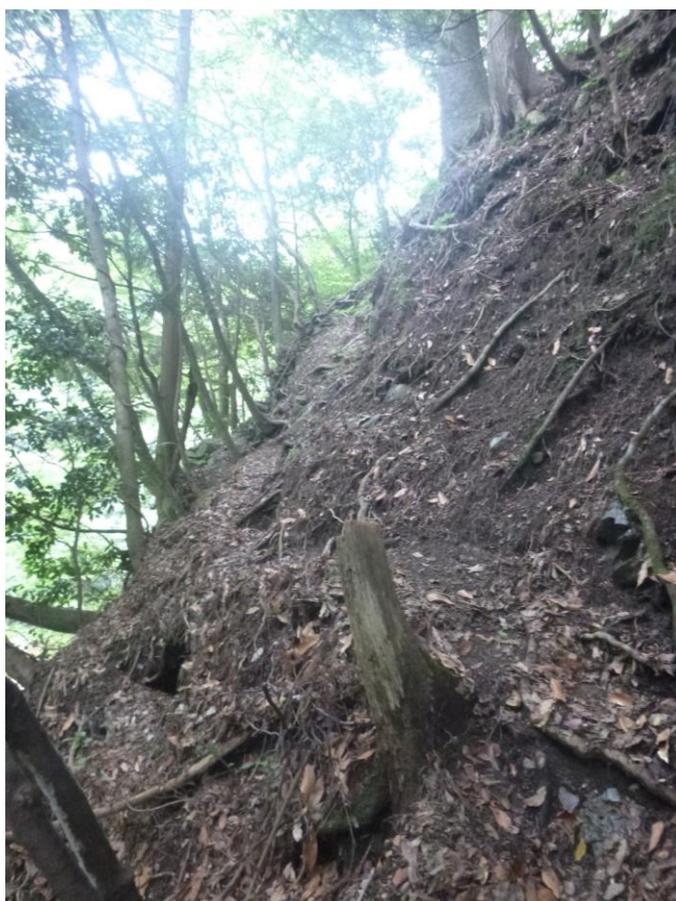
鈴鹿 野洲川 元越谷

平成26年7月23日(水)

L: 川村祐 メンバー: 小池N・川村裕 (記)

浜松西インターから四日市インターで降り、車止めゲートに向かう。ゲートの所は以前行かれた方の記録を見るとヒルパニックとなったようだ。ヒルパニックだけは避けたかったので、それより前の安全地帯で装備をつけ、ゲート前に車を停めて下を確認したが、今年はヒルは見当たらない。今年はあまり居ないようなのでホッとする。

車止めゲートから林道を歩き、猪足谷出合を過ぎ、木材集積場（とはいっても廃材が置いてあるようなところだが）から入渓する。まずはおだやかな河原歩きだ。



堰堤があるので巻く。巻き道には踏み跡もあり、危険箇所はない。



沢に戻るところにフィックスロープがはってあった。まだ歩き始めだったので慎重に歩く。



沢はエメラルドグリーンで今からの沢登りにワクワクする。綺麗な所だ。最初の淵は左側をへつる。まずはリーダーが行く。高く行き過ぎてそのまま通過するのにつまらないと思った様で、水に飛び込む。私もやってみたけど、リーダーの登りを見て学習することはなく同じルートを行ってしまった。低いところに下がろうとしたが、頑張りきれずドボン。小池さんはそのまま泳いでいく。リーダーは再度チャレンジし、見事通過！



しばらくは快適な沢登り。明るい溪相でいいところだ。15メートルの滝に来た。



右側を快適に登り、滝に着いた。滝の落ち口にはフィックスロープもついているが、水の勢いがある。水にもっていかれたら嫌な感じがして、小池さんと私は巻く。リーダーはぎりぎりまで行ってみるが水の勢いがあるのでやめた。



ここからがナメと淵の競演が続き最高のクライマックスだった。癒し系の沢で、シーズン始めにはとってもいいところだ。滝は大きいものはないが、とっても綺麗で素晴らしい。楽しく通過していった。仙の谷の分かれたところを過ぎても小滝が続く。



綺麗です



1箇所楽しく登れる滝があり、小池さんは左側、私は右側のチョロチョロ水が流れているところから、リーダーは滝の真ん中からチャレンジし見事全員突破！



仏谷との出合につく。4メートルの滝がかかり、ゴルジュを作っている。ショルダーで抜ける。

その後チョロチョロ流れる滝の真ん中に大きな丸太が縦に架かっている、岩肌はぬるぬるして滑りそう。そこは念のためロープを出してもらったが難しいところはなく、登れた。



ガレた沢と水量の少ない沢の出合につく。水量の少ない方に行こうとしたがリーダーのストップがかかる。そこでどちらにいくか考える。結局ガレた沢を10分ぐらい登ったら稜線に出たが、怪しげな稜線。右往左往するがまともな道とは思えず、ウロウロする。支稜線ではないかという話になり、電波が届かないと諦めていたが、携帯の電源を入れ、グーグルマップを起動させる。奇跡的に一瞬電波が入り、地形図を見比べやはり支稜線にいた。しかし二度と電波は入ることはなく、稜線に出たところから東に行き詰めてみると大きく崩壊したところにてた。リーダーが地形図の崩壊地を見つけ、現在地をやっと把握できた。

明るいうちに主稜線まで出ようということになり、崩壊地脇の尾根を辿りながら、稜線を目指し、歩みを進めた。リーダーの「稜線出た！」の音が聞こえたときは、ほっとした。



やっと沢装備を外し少し休憩する。ここまでくれば暗くなっても帰れる安心感に浸っていた。稜線に出るまでには、今日はビバークかな、とか無線があるから連絡して捜索隊は来なくて大丈夫だよと伝えなくちゃいけないとか頭の中でいろいろ考えていた。小池さんも似たようなことを考えていたらしい。下山は水沢峠から林道を歩いて無事帰ることが出来た。本日の目的の美しい釜、ナメに酔いしれることができたが、最後の沢を詰めるところで、右の沢をいくか、ガレた沢をいくか話し合っているとき、私の感覚ではまだ稜線に上がるどころではなく、もうちょっと下にいるような感じだと思っていたが、感覚だけで、きちんと理論で説明できなかった。リーダー任せでついていくという山行ではなく、自分でも現在地をきちんと把握できるよう、読図にも力を入れてさらに勉強していきたい。

林道車止めゲート（9：00）入渓点（9：20）へつり地点（10：20）15メートル滝（10：35）仏谷出合（14：05）支稜線（14：34）崩壊地（16：21）水沢峠（16：31）車止めゲート（18：18）